

アユの生息状況調査（2023.9.13）

2023年9月15日
水産試験場

調査日 | 2023年9月13日

調査場所 | 那珂川（黒磯～烏山）

調査内容及び方法

○坪井&高木 2016.の手法に従い、

川幅2m流程100mあたりのアユの尾数¹⁾を数えました。

○透明度、巨石率²⁾、大型藻類（青ノ口）被度を測定しました。

1)友釣りによるアユの釣れ具合と相関することが知られている

2)巨石率が高い場所はアユの生息密度が高いことが知られている

調査結果

○10地点で調査を実施しました。



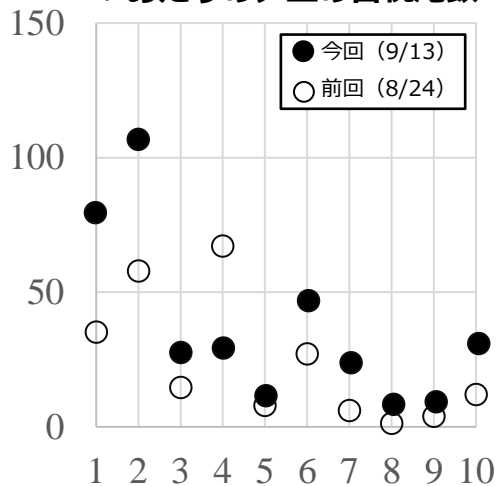
No.	地区	場所
1	黒磯	那珂川河畔公園
2	鍋掛	数ヶ室
3	寒井	矢組堰下流
4	黒羽	高岩
5	湯殿	水遊園大橋上流
6	小川	青岩
7	八溝	八溝大橋下流
8		ニコン裏
9	烏山	烏山大橋下流
10		下野大橋下流

図1 調査場所

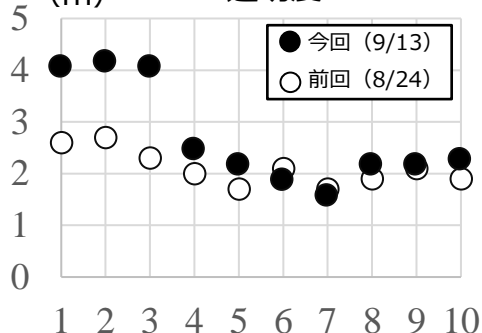
表1 調査結果の一覧

No.	地区	場所	調査距離 (m)	目視尾数 (尾)	幅2m流程100mあたりの目視尾数 (尾)	透明度 (m)	巨石率	大型藻類 (青ノ口被度)	備考
1	黒磯	那珂川河畔公園	75	60	80	4.1	0.33	0.15	緩流帯にはコカナダモが群生
2	鍋掛	数ヶ室	48.5	52	107	4.2	0.40	0.00	
3	寒井	矢組堰下流	46.5	13	28	4.1	0.53	0.18	緩流帯にはコカナダモが群生
4	黒羽	高岩	50.5	15	30	2.5	0.27	0.19	
5	湯殿	水遊園大橋上流	58.5	7	12	2.2	0.30	0.18	
6	小川	青岩	74	35	47	1.9	0.43	0.09	
7	八溝	八溝大橋下流	62	15	24	1.6	0.37	0.12	
8		ニコン裏	69	6	9	2.2	0.13	0.00	
9	烏山	烏山大橋下流	103	10	10	2.2	0.20	0.10	緩流帯にはコカナダモが群生
10		下野大橋下流	67	21	31	2.3	0.13	0.03	

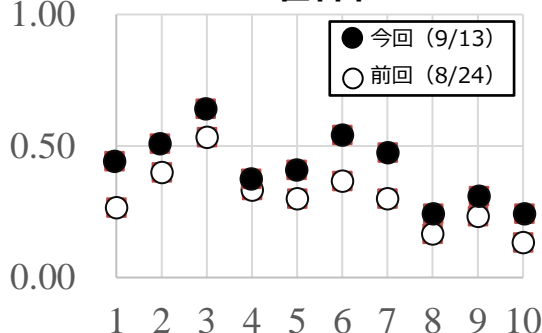
幅2m流程100m (尾) あたりのアユの目視尾数



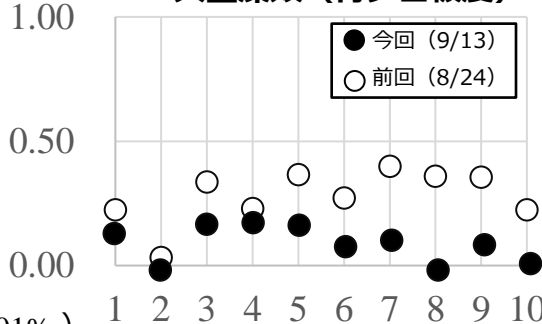
透明度 (m)



巨石率



大型藻類 (青ノ口被度)



○ 前回調査 (8/24) との比較

・アユ目視尾数

大きく増加 (平均では前回調査の245%)
 上流ほど多い傾向は変わらず。
 ただし、黒羽のみ前回より減少。

・透明度

やや上昇 (平均では前回調査の127%)
 特に上流部で大きく向上。

・巨石率

ほとんど変化なし (平均では前回調査の101%)

・大型藻類

大きく減少 (平均では前回調査の44%)

○アユの目視尾数と環境要因の関係

・ 巨石率 vs アユ目視尾数

巨石率が高い地点ほどアユの目視尾数がやや多い傾向（前回調査より傾向が強まった）

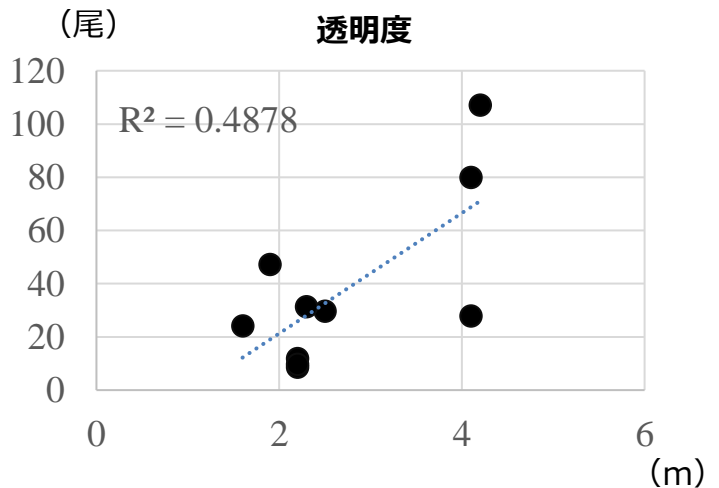
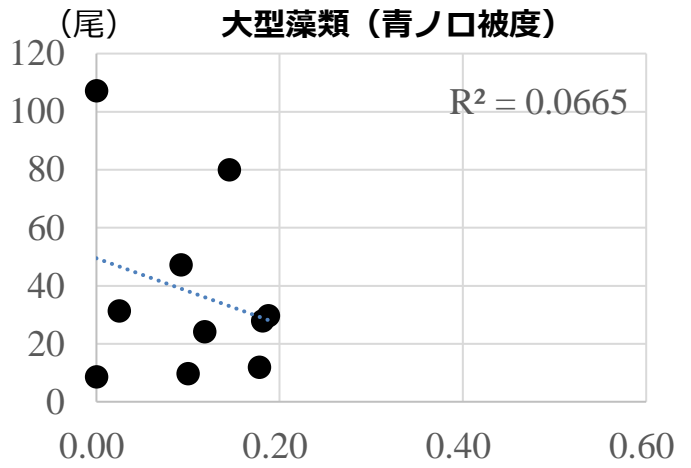
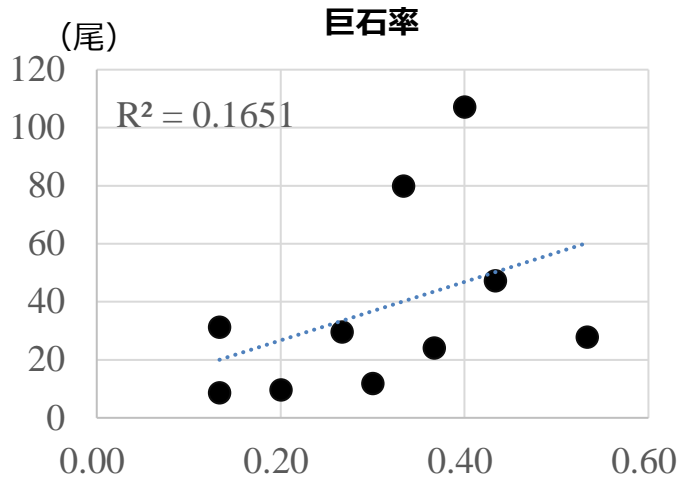
・ 大型藻類 vs アユ目視尾数

ほとんど関係性が見られなくなった（前回調査時まではアユの生息を妨げる水準の青ノ口被度である地点が多数あったが、今回の調査時には状況が改善した地点が多かったことによると考えられた）

・ 透明度 vs アユ目視尾数

透明度が低い地点ほどアユの目視尾数が少ない傾向（前回調査より傾向が強まったが、透明度の高かった黒磯と鍋掛の目視尾数が大幅に増えたことによると考えられた）

幅2m 流量100m
あたりのアユの目視尾数



地点1
那珂川河畔
公園



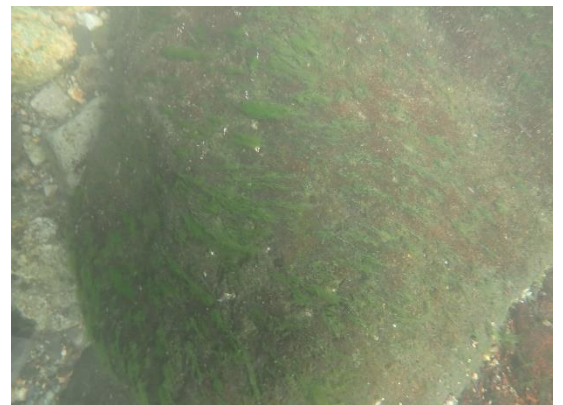
地点2
数ヶ室



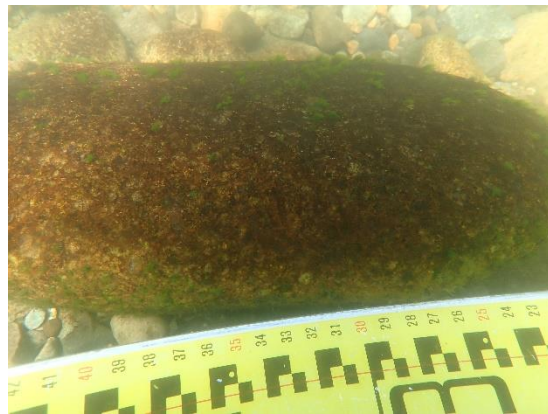
地点3
矢組堰下流



地点4
高岩



地点5
水遊園大橋
上流



地点6
青岩



地点7
八溝大橋下
流



地点8
ニコン裏



地点9
烏山大橋下流



地点10
下野大橋下流



コカナダモの繁茂状況



矢組堰上流



烏山大橋上流



コカナダモ群落の水中の様子

- ・緩流帯にはコカナダモの群落が見られた。
- ・流速が遅くなるためか、その付近には泥の堆積が多い傾向。

栃木県水産試験場
担当：高木
0287-98-2888